

2021年度を振り返って

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学司書・司書教諭課程 公開日: 2022-05-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 三浦, 太郎 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/22489

2021年度を振り返って

三浦太郎

本年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応が大きな課題となった。2022年2月17日時点で、国内の感染者は425万人、死亡者は2.1万人に上り、世界で見れば感染者は4.1億人、死亡者は約585万人を数えている（厚生労働省、米国ジョンズ・ホプキンス大学調べ）。2021年秋に小康状態を迎えたが、年明けにオミクロン株など新たな変異株の急拡大が見られた。

年度当初、明治大学では春学期の活動制限指針をレベル1（通学を前提とした授業運営）で設定していたが、4月下旬の緊急事態宣言の発出とともに、同指針がレベル2（原則オンライン活動）に変更された。レベル2では、全体の7割の授業をオンライン形態で実施し、残りの3割について人数を制限して対面授業で実施した。司書課程・司書教諭課程（以下、当課程）でも、講義科目は主にオンデマンド・コンテンツを作成・公開するなどして対応し、少人数の演習科目は多くを対面で行った。その後、コロナ禍の感染状況に応じて、活動制限指針は6月下旬にレベル1、7月中旬にレベル2に変更された。秋学期はレベル1での運用となり、授業の7割を対面で、3割をオンラインで開講した。

兼任講師の先生方や関係職員の方々には、授業準備等にご苦勞をおかけした。この場を借りて御礼申し上げたい。また、当課程では2007年度からeラーニング方式の「メディア授業」を実施してきたが、本年度も、内田洋行から派遣されたラーニング・コンシェルジュやチュータラ支援スタッフと協力しながら、そうした授業形態を進めた。

当課程の運営する明治大学図書館情報学研究会（以下、研究会）では、春学期と秋学期に各1回の例会と、秋学期に記念講演をリアル開催することができた。6月の第1回例会には小林昌樹先生（慶應義塾大学非常勤講師）に「国立

国会図書館70年史の時代区分：役割の二重性を手がかりに」をテーマにご発表いただいた。12月の記念講演では、ベンジャミン・ワイト先生（英国ボーンマス大学）と井上靖代先生（獨協大学）に「電子書籍及びデジタル単一市場における著作権法指令—教育、研究及び図書館の視点から—」を、また、第2回例会では中西裕先生（明治大学司書講習講師）に「書誌作成と文献探偵」をテーマに、それぞれご発表いただいた。各先生方に感謝申し上げます。例会の報告と記念講演の内容は本年報に収録されている。ぜひ、ご参照いただければ幸いである。

2003年7月から行ってきた図書館員を目指す学生たちのための勉強会（2009年7月から研究会が主催）も、ほぼ2か月に一度、Zoom開催の形で実施した。図書館への就職を希望する学生に的確なサポートを続けていきたい。

2014年度以降、夏に福島県新地町図書館で実施してきたボランティア活動の延長上に組織された司書業務研修（2019年度～）は、昨年度に引き続き、中止となった。ただし福島県沖地震に際して支援活動が行われた。本年報の活動報告を参照されたい。

2005年度から文部科学省の委嘱を受けて実施している司書講習も、昨年度に続き夏期集中（対面）は中止し、メディア授業のみの実施となった。147名の応募があり、作文審査の結果、125名の社会人が受講した（全科目受講108名、部分科目受講17名）。11月16日には「令和3年度司書・司書補講習全国連絡協議会」がオンライン開催され、社会連携事務室の堀内優子さんと当課程主任の三浦が参加した。

最後に年度末で米谷茂則兼任講師が退任される。20年間のご協力に感謝申し上げます。助手の松野南紗恵さん、TAの矢本彩さん、北村佳誉さん、栗原共基さん、佐藤大雅さんにも一年間課程運営に協力いただき、感謝申し上げます。